

重点目標	児童の達成指標	教職員の評価指標	7月評価		12月評価			2月評価		最終評価		分析・改善・方策	学校運営協議会
			児童	教職員	児童	教職員	保護者	児童	教職員	項目	総合		
1 自ら学ぶ力の育成	自らすすんで学習に取り組むことができた。	児童の意欲・関心を高めるため、授業導入5分を大切にしている。	83.8	84.2	83.8	100	75	86.2	100	87.6	74.1 B	「自ら学ぶ力の育成」に関する総合評価がBに留まったのは残念である。しかし、児童が協働的な学びを通して、進んで学習に取り組もうとした姿勢は評価項目から見取ることができる。自分の考えを大切にした主体性のある学びが一層促進されるよう積極的に今後も取組を進めたい。 児童による家庭学習のあり方についての評価数値は高い。その点で肯定的に捉え、もっと効果的で質の高い学習となるよう支援することが重要である。家庭学習の見直しに関する職員評価が低く、取組の意義や方向性を再確認したい。	読書を推進するためには、保護者にもその目的や意義を理解してもらい、家庭での協力体制を整える必要がある。 家庭学習がより主体的なものとなるようにするためには、自主学習のやり方やテーマ設定の大切さを教職員で再確認し、児童に伝わるよう、より丁寧な手立てが必要である。
	授業では自分の考えや意見をもつことができた。	考える視点を明確にするとともに、思考ツールや整理スキルの指導を行っている。	84.8	17.6	82.2	64.7	74.8	86.2	75	69.3			
	意見や考えを大切にし、友だちと交流（話し合い）をすることができた。	話し合い活動が活性化するよう、意図的・計画的に時間や場を設定している。	90.4	77.8	88.5	88.2	80.4	88.8	92.3	86.6			
	ふり返りを自分の言葉で丁寧に言うことができた。	非認知能力「6つの力」をふり返りの視点として実施している。	80.2	61.6	73.3	88.2	65.8	74	100	77.6			
	学校で学んだことを利活用する（生活の中で使う）ことができた。	学校で学んだ知識を、生活の場で活用することができるよう取り組んでいる。	81.7	52.6	79.1	82.4	75.7	84.2	76.9	76.1			
	まちがった課題（問題）から、自分がまちがった理由を見つけることができた。	自分の誤りを認識・克服するための方法や手立てを指導している。	70.6	88.9	74.3	87.5	50.6	76	83.3	75.9			
	読書量を増やすことができた。	児童が読書に親しむための時間確保と意欲向上につなげる取組を行っている。	61.9	60	62.3	60	37.7	54.6	75	58.8			
	自分にとって必要な家庭学習を、自分なりに考えて取り組むことができた。	翌日につなげる準備学習の内容については、児童に自己決定させている。	84.8	33.3	72.8	53.3	54.3	76	50	60.6			
2 自己肯定力の育成	美作第一小の育てたい非認知能力「6つの力」を意識することができた。	非認知能力「美作第一小6つの力」の視点で、ふり返りに取り組んでいる。	84.3	57.9	90.1	76.5	75.2	89.8	100	82.0	85.0 A	第一小6つの非認知能力イメージキャラクター「おんたろう」の誕生により、ねらう力が明確化され、ふり返りにおいて有効に働いたと考えられる。 自分に自信をもって活動できるように表現する場（アウトプット）を大切にしようとしたが、児童の自己評価が低い。この評価の原因を探り、修正・改善する必要がある。	キャラクターを決めたことで、身に付けようとしている非認知の力が児童の中に落とし込まれてきたように思う。 あいさつが出来ない実態があるので、礼儀等も含め取組内容の検討が必要である。
	誰に対しても気持ちのよい「あいさつ」をすることができた。	あいさつする目的と意義を児童に伝えている	76.6	94.7	77	88.2	73.4	78.6	100	84.1			
	自分が調べたことやまとめたことを、発表することができた。	自らの学びを表現「アウトプット」することの大切さを伝え、場の設定に取り組んでいる。	66.5	77.8	61.8	88.2	84.7	59.2	83.3	74.5			
	友だちのよいところを見つけたり、自分のよいところを見つけてもらえたりすることができた。	児童や学級の実態把握に努め、その変容の見取りを行っている。	85.3	94.7	83.8	94.1	98	83.2	92.3	90.2			
	先生は自分の努力（しようとしたこと、がんばったこと）を認めてくれた。	結果ではなく過程を評価し、児童に一人ひとりに明確に伝えている。	94.4	94.4	91.1	88.2	98	94.9	100	94.4			
3 心身の安全	楽しみながら、自分からすすんで体を動かした。	児童が体を積極的に動かす仕掛け・場面づくりに取り組んでいる。	88.3	71.4	86.9	81.3	84.3	85.7	58.3	79.5	75.3 B	生活リズムは学習の基盤である。その点から考えると数値は決して高くない。PTA活動との連携を図り、親子で目的を共有して取り組む意義を保護者と再確認したい。 心身の健康や安全に関する項目の数値が高いことは重要であり、今後も継続していきたい。	生活リズムを整えることの重要性を理解していない家庭も多い。保護者だけでは難しいので、CSとして何かできることを模索する必要がある。
	健康を意識し、生活リズム（早ね・早おき・朝ごはん）を整えるようにした。	生活リズムを整えることの目的について考えさせ、具体的な取組をすすめている	72.1	40	70.2	62.5	85.1	76.5	54.5	65.8			
	苦手な食べ物でも、好き嫌いせず食べようと努めた。	栄養職員と連携するなどし、食に関する指導を実施している。	79.2	40	77.5	83.3	63.4	76	50	67.1			
	安全に気を配った登校や学校生活を送るよう心がけた。	児童が安全に対する意識を高くもつよう具体的な取組につなげている。	83.8	66.7	89	100	94.2	87.2	100	88.7			
4 チャレンジする		児童理解に努め、積極的生徒指導を実践した。		84.2		83.3			100	89.2	85.7 A	児童が主体的に生き生きと学ぶ授業づくりをめざし、ICT活用や単元計画の活用など、授業改善や自己研鑽に職員が努める姿が見られた。児童の主体性を伸ばすには、教職員自らがまず主体性をもった取組をすることが重要であるとの意識を今後も持ち続けたい。	人権の意識を育てることが非常に重要な時代でもある。ICTを進めると同時に、人を思いやる心の育成に、学校としても一層力を尽くして欲しい。
		道徳教育・人権教育の重要性を認識し、計画的に実施した。		46.7		93.3			83.3	74.4			
		自己研鑽・研修などを行い、授業改革に取り組んだ。		100		100			100	100.0			
		家庭学習と学校教育の連携を図れるよう工夫した。		73.3		80			84.6	79.3			
5 家庭・地域		保護者との良好な人間関係づくりに努めた。		87.5		94.4			92.3	91.4	67.5 B	各担任を中心に細やかな連絡や家庭訪問を行い、良好な関係性を築くよう努めた。地域連携については模索中ではあるが、CSを立て上げることができた。 児童が客観的・社会的評価を得る取組を今後も模索したい。	地域と学校をつなぐ取組を一層進めて欲しい。つながり、知り合うことがトラブルを防ぐ、最も重要な手立てとなる。
		地域を教材とし、地域を活用するよう工夫した。		64.3		75			61.5	66.9			
		地域との関わりを意識した取り組み（作品展示・発信等）を行った。		28.6		50			53.8	44.1			
6 学校安全		校務分掌などを通じて、環境整備等に努めた。		71.4		89.5			84.6	81.8	87.2 A	すべての職員がコンプライアンスを遵守し、自分・仲間・職場、そして児童を守る意識で行動することができた。勤務時間については改善が見られた。 ウェルビーイングな職場環境づくりに全職員で一層努めたい。	研修に熱心に取り組んでいる様子が見られる。引き続き自己研鑽を重ねていってもらいたい。
		勤務時間の削減を意識し、働き方改革推進に努めた。		76.2		78.9			84.6	79.9			
		交通安全・コンプライアンス遵守を常に意識した。		100		100			100	100.0			